

緑化だより

No.193 令和5年5月号



クマガイソウ

- 季節の花(かには(ウワミズザクラ))
- 水生昆虫の話(ガガンボの幼虫)
- 小さな世界こけ(マキノゴケ)
- 研修会のご案内
- お知らせ・ご案内
- 展示会

ryokka 遊学の森

広島県緑化センター



〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2



広島県
緑化センター
二次元コード

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843 URL <https://ryokka-c.jp>

季節の花

かには(ウワミズザクラ)

「…妹(いも)が目離(か)れて きたへの 枕もまかず 桜皮(かには)巻き
作れる舟に ま梶貫(かじぬ)き 我(わ)が漕ぎ来れば 淡路の野島(のしま)も過ぎ…」

山部赤人 万葉集 巻6-942

これを訳しますと

(妻と別れ、共寝もしないまま、桜皮(かには)を巻いて作った船の両舷に梶をつけ(梶はここでは船を進める櫂の意味)ここまで漕いで来ましたが、淡路の国の野島(のしま)も過ぎて、この地にやっとの思いで来ました…)

古代には「かには」は、かば桜と呼ばれ「かには巻き」といって、潮風や腐食から船を保護し、見た目が美しく装飾された船でした。

この船で現在の兵庫県淡路市の沖に並ぶ、三つの無人島付近に、山部赤人が立ち寄った時にこうたわれた歌です。

ウワミズザクラ(上溝桜)はバラ科ウワミズザクラ属で、古くは「ハハカ」とも言いました。

山野にはえる落葉高木、高さ10m以上になります。

花は白色で4~5月、長さ約8cmの瓶を洗うブラシのような花序を付けます。果実は丸く、赤から黒に熟します。蕾や若い実は塩漬けや果実酒などに用います。

山形地方では「あんにご漬」と言い、お茶うけや酒の肴にします。

蕾や花はあえ物に、完熟した実は生食できます。

古代社会では占いにより吉凶を判断して政治や祭りが行われました。亀甲占をする時、亀の甲をあぶるため、ウワミズザクラに溝を掘って火を起こしました。これが「上溝桜」の語源といわれています。(上村)



ウワミズザクラの花

水生昆虫の話

ガガンボ

五月雨の季節、野山の若葉の新緑が色濃くなり、田植えが終わるとカエルの合唱がきこえてきて、チョウやトンボの姿も見かけるようになり、あちらこちらで生命の息吹を感じられる今日この頃です。

さて、今回は水生昆虫の中でも、一風変わった半透明で大きなイモムシのような不思議な姿の「ガガンボ」の幼虫をご紹介します。

春になると、水辺でイトトンボと見間違えるような、脚の長い大きな蚊のような虫が交尾・産卵している姿を見かけることがあります。この大きな蚊のような虫は、春から秋にかけては、水辺だけでなく山の中や、家の軒下、コンクリート壁などにとまってジッとしている姿を見かけることがよくあるのですが、この巨大な蚊のような昆虫が「ガガンボ」の成虫。

ガガンボは、双翅目(ハエ目)・糸角亜目ガガンボ科に属しており、国内はもちろん、世界中で見てもガガンボの種類は大変多く、翅に色や模様があるタイプや、大きさなども実に様々。

そんなガガンボのことを、私の家族は「トンボガ」と呼んでいたもので、最近までその「トンボガ」という呼び名が正式名称だと勘違いしていました。各地で様々な地方名も存在するようですが、広島では「カトンボ」と呼ぶ人が多い印象です。

成虫が長い足をバツと広げてフワフワゆっくりと飛ぶ姿は何とも弱々しい感じで、手で軽く叩き落とすだけで、足がばらばらに取れてしまうほど。

その脆さを、俳人で小説家の高浜虚子は「ががんぼの脚の一つが悲しけれ」と詠んでいるほどで、部屋に細長い棒のようなゴミが落ちていると思ったら、実はガガンボのとれてしまった脚だったと隣れむ気持ちを匂にしたものです。

蚊と同じような見かけから、「害虫」と認識されていることも多いようですが、実は蚊と違って人や動物を刺して吸血することは無く、花の蜜などを主食としているので、成虫は人に直接的な害はありません。

ガガンボ類の幼虫は水生・半水生・陸生(りくせい)のものがおり、陸生タイプのは土中で芝生などの根を食べるので、害虫として駆除対象になっていたりしますが、今回ご紹介するのは水生タイプの幼虫です。

この幼虫を初めて川の中で採集した時は、大きな半透明の不気味なイモムシに見えたので、正直なところゾツとしてしまいました。水中に棲むガガンボ科の幼虫は、体を触ってみると柔らかくてブヨブヨしたイモムシのような感じで、足も目もありません。観察してみると、腹部の末端には1対の丸い呼吸盤があって、その周囲にはまるでインギンチャクの触手のような数対の肉質突起があるので、見れば見るほど不思議な形状をしています。



ガガンボの幼虫

幼虫の大きさは9~50mmで、中流域から山地溪流の水中に堆積した砂や朽木、落ち葉の下などでよく見かけます。雑食性で、藻類や、その他の細かな有機物粒子などを食べています。完全変態して成虫になるようですが、まだまだ解明されていない部分も多くあるようなので、興味のある方はぜひ生態について研究してみたいかがでしょうか。(西村)

小さな世界 こけ

マキノゴケ

4月からのNHK連続テレビ小説で牧野富太郎博士をモデルにした物語がはじまりました。それに合わせて各地で牧野富太郎博士の企画展が行われています。

牧野博士は顕花植物やシダ植物の研究に業績を残していますが、コケ植物の採集も数多くあります。その結果、多くの新種が報告され、採集者である牧野博士を記念した学名も数多く発表されています。

マキノゴケは、牧野博士が千葉県清澄山で採集した標本に基づいて、東京帝国大学の学生であった三宅驥一(きいち)氏によって新属新種ではないかと同定されました。念のため、苔類の専門家であるスイスのステファニーに標本を送ったところ、フランスの宣教師フォーリーが秋田で採集し、ステファニーが新種として、すでに発表していたものと同じと判明しました。そこで三宅氏は、学名の新しい組み合わせをつくり、新属 Makinoa として、1899年に植物学雑誌に発表しました。

令和元年8月号でも紹介しましたが、雌雄異株で、濃い緑の葉状体、葉の縁はすこし波打っています。造精器で作られた精子の長さは植物の中ではもっとも大きく肉眼でも見える大きさです。(山根)



マキノゴケ



マキノゴケの雄器

研修会のご案内

- | | |
|---|---|
| ○5月11日(木) 『春の写真教室』～春を写そう～
散策路を歩きながら、植物の撮影について学びます
※要予約(先着15名)、無料、カメラ持参、雨天中止 | 10:00～12:00 学習室 集合
講師：二科会会員
宗岡 泰昭 |
| ○5月13日(土) 『春のバードウォッチング』
散策路を歩きながら野鳥を観察します
※自由参加、無料、双眼鏡持参、雨天中止 | 10:00～12:00 学習展示館前 集合
講師：日本鳥類保護連盟
三次地方分会事務局長
衛膳 慎也 |
| ○5月15日(日) 『第11回ひろしま遊学の森こども写生大会』
～春の緑化センターを描こう～
※自由参加、無料、画材(画用紙以外)持参 | 10:00～12:00 学習室 集合
講師：元中国新聞社図画教室
指導審査員 横山 直江 |
| ○5月17日(水) 『コケの観察会』
室内で基本を学び、屋外で観察します
※自由参加、無料、ルーペ持参 | 10:00～12:00 学習室 集合
講師：広島大学名誉教授
関 太郎 |
| ○5月20日(土) 『三本木山 自然探勝』
三本木山頂をめざしながら植物を観察し
※自由参加、無料、荒天中止 | 10:00～12:00 第5駐車場 集合
講師：NHK文化センター
アシスタント 上村 恭子 |
| ○5月27日(土) 『庭木の病虫害教室』
防除と土づくりについて学ぼう
※自由参加、無料 | 10:00～12:00 学習室 集合
講師：樹木医
菅 信貴 |
| ○5月28日(日) 『5月の自然探勝』
園路を歩きながら植物を観察します
※自由参加、無料、荒天中止 | 10:00～12:00 学習展示館前 集合
講師：緑花文化士
横山 直江 |
| ○5月31日(水) 『松の手入れ(春)』
基本を学び、屋外で実技指導を行います
※要予約(先着15名)、無料、剪定鋏・手ノコ持参 | 10:00～12:00 学習室 集合
講師：NPO法人樹木医ひろしま
工藤 徹 |

中止

☆ お知らせ・ご案内 ☆

第21回ひろしま「山の日」県民の集い (レストハウス前広場)

6月4日(日) 10:00～15:00

森の体験(除伐活動、要予約)、森のネイチャーゲーム、自由工作塾

◎ 展示会

場所:レストハウス

(ボード展示)

「野の花 水彩画」展 ～5月28日(日)

(ガラスケース展示)

陶友会「陶芸作品」展 ～6月27日(火)

場所:学習展示館(ボード展示)

季節の花 写真展 ～6月30日(木)



第11回ひろしま遊学の森
「こども写生大会」作品展より